

平成13年度 施策別取組方向

部局名：環境部、総合企画局

施策番号	施策名		
322	大気環境の保全		
【2010年度の目標】 一人ひとりの生活様式や事業活動が大気環境に配慮したものとなり、窒素酸化物などの大気汚染物質や二酸化炭素（CO ₂ ）などの地球環境に関わる物質の排出が削減されています。			
項目	基準年度の状況	1999年度実績	2001年度の目標 (2010年度の目標)
大気汚染の環境基準	(1995年度) 一部未達成	一部未達成	全地域においておおむね達成・維持 (全地域において達成・維持)
大気汚染の県環境保全目標	(1995年度) 一部未達成	一部未達成	全地域においておおむね達成・維持 (全地域において達成・維持)
低公害車(LEV車を含む)の導入台数	(1995年度末) 372台	(1998年度) 692台	10,000台 (10,000台)
二酸化炭素排出量	(1990年度) 一人当たり排出 3.41t	(1997年度) 3.99t-c/人	温暖化防止京都会議を踏まえでき 限り削減 (同上)
市町村のフロン回収実施率	(1995年度末) 3%	86%	100% (早急に100%)

1 平成11年度取組

(1) 平成11年度取組概要とその成果

(環境部)

ダイオキシン類の大気環境調査を12市、及び発生源周辺(3地区、12地点)で実施し、全ての地点で環境基準を達成した。

地球温暖化対策として県は、地球温暖化対策推進計画の策定とISO14001の認証取得を行うとともに、低公害車の促進を図り41台を導入した。

廃家電製品等からのフロン回収を進めるため、15市町村(組合)にフロン破壊処理に係る経費補助を行い、2,976kgを処理した。(回収実施率86%)

(総合企画局科学技術振興センター)

酸性雨、酸性霧実態調査、化学物質環境汚染実態調査を行い、実態を把握した。

(2) 平成11年度取組に対する問題点

(環境部)

ダイオキシン類に対する環境調査の範囲の拡大が求められている。

PRTR法施行に伴い、化学物質を使用する事業所への法の周知及び事業者の化学物質の適正な管理の推進が必要である。

三重県地球温暖化対策推進計画を推進するため、まず地方公共団体が温室効果ガス排出削減のための「実行計画」を策定し、計画に基づき率先して省エネ対策等を進める必要がある。

(総合企画局科学技術振興センター)

酸性雨・酸性霧については、経年的な実態把握が必要である。また、化学物質については、実態未把握の物質が数多く存在する。

2 平成12年度取組と成果見込み

(環境部)

ダイオキシン類を366地点(大気は一般環境25地点、発生源50)で調査し、その結果を公表するとともに、調査結果が基準値を越える地域では、県民局や市

町村と連携し、地域での対応について話し合える場を設置する。

事業者が取り扱う化学物質の環境への排出量、移動量調査を PRTR パイロット事業で実施し、県内で使用される化学物質の種類、環境への排出量を把握する。

県の地球温暖化対策実行計画を本年度に策定するとともに、市町村の実行計画策定について、ISO14001 の認証取得との整合を図り促進する。

(総合企画局科学技術振興センター)

酸性雨・酸性霧実態調査及び化学物質汚染実態調査を継続し、データの充実を図る。

3 平成 13 年度以降に向けての取組方向

(環境部)

大気汚染は、自動車排出ガスが大きな原因となっており、グリーン税制の導入や排ガス規制の強化など抜本的な対策を国へ要望していく。

ダイオキシン類、環境ホルモン対策は、12 年度に引き続き広範囲に環境調査を実施し、結果を公表する。

地球温暖化対策は、三重県地球温暖化対策推進計画「チャレンジ 6」に基づき総合的に推進する。

- ・ 県内の総二酸化炭素排出量の約 45% を占める大規模事業所 122 社(うち 28 社は策定済)に対する地球温暖化対策実行計画の策定促進
- ・ 市町村や企業等に対する ISO14001 の認証取得の促進
- ・ 29 市町村は 12 年度に地球温暖化実行計画の策定を計画しており、13 年度に全ての市町村が策定するよう促進
- ・ 12 年度に策定した県自らの地球温暖化対策実行計画を推進
- ・ ライフスタイルの見直しを進める環境県民運動
- ・ 森林 GIS による県内のゾーニングを踏まえ、二酸化炭素の吸収・固定機能を増進するため、関係機関と連携して、その機能にふさわしい森林づくりを推進

(総合企画局科学技術振興センター)

ダイオキシン類、環境ホルモン等、化学物質による環境汚染、及びそれに伴う健康影響が懸念されていることから、これらの微量化学物質の分析体制の基盤整備を行い、環境中の実態解明等の調査研究を行います。また、酸性雨・酸性霧の実態調査を継続する。